

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 07-132946

(43)Date of publication of application : 23.05.1995

(51)Int.Cl.

B65D 33/25

A61J 1/00

B65D 30/02

B65D 30/22

(21)Application number : 05-310981

(71)Applicant : SEISAN NIPPONSHA KK

(22)Date of filing : 08.11.1993

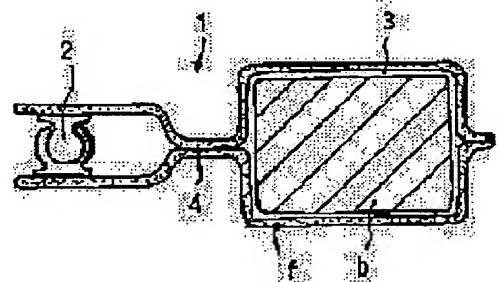
(72)Inventor : FUKAZAWA TETSUO

## (54) PACKING BAG WITH FASTENER FOR OBJECT INCLUDING VOLATILE CONSTITUENT

### (57)Abstract:

**PURPOSE:** To form a packing bag with fastener for an object including volatile constituent such as a cataplasm wherein synthetic resin not for adsorbing volatile constituent such as flavor component is used in an innermost layer so that the volatile constituent of the object may not be adsorbed into a fastener.

**CONSTITUTION:** A bag with a fastener comprises an opening side of a housing 3 for an object to be packed is sealingly partitioned by a peelable seal 4 and a fastener 2 positioned on the side of the opening with respect to the peelable seal 4, wherein the fastener 2 is formed of synthetic resin for adsorbing volatile constituent such as polyethylene, polypropylene or their copolymers. On the other hand, at least an innermost layer of the housing 3 including the peelable seal 4 is formed of synthetic resin not adsorbing volatile constituent such as polyacrylonitrile copolymer, polyethylene terephthalate, ethylene.vinyl.alcohol copolymer and non-crystallized nylon.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 15.04.1997

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 09.03.1999

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

1/4

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-132946

(43) 公開日 平成7年(1995)5月23日

(51) Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D 33/25		A		
A 6 1 J 1/00				
B 6 5 D 30/02				
30/22		F		

A 6 1 J 1/00 370 C  
 審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平5-310981

(22) 出願日 平成5年(1993)11月8日

(71) 出願人 000147316

株式会社生産日本社

東京都千代田区麹町5丁目3番地

(72) 発明者 深沢 哲夫

浜松市和合町220の1031

(74) 代理人 弁理士 羽生 栄吉

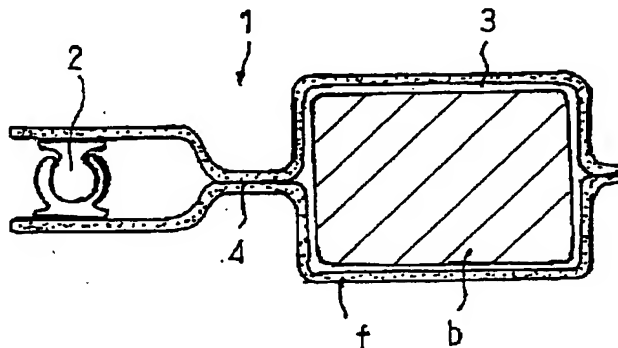
FP05-0010-
0010-HM
05.4.05
SEARCH REPORT

(54) 【発明の名称】 揮発性成分を内蔵する被包装物の包装用チャック付き袋体

(57) 【要約】

【目的】 バップ剤などの揮発性成分を内蔵する被包装物の包装用チャック付き袋体で、最内層にフレーバー成分などの揮発性成分非吸着性合成樹脂を用いたものにおいて、被包装物の揮発性成分をチャックに吸着しないようにチャック付き袋体を形成すること。

【構成】 被包装物収納部3の開口側が剥離性シール部4により密閉区画されており、チャック2が剥離性シール部4に対して開口側に位置しているチャック付き袋体であって、チャック2はポリエチレン、ポリプロピレンあるいはそれらの共重合体などの揮発性成分吸着性合成樹脂で形成されており、一方、剥離性シール部4を含む被包装物収納部3の少なくとも最内層はポリアクリロニトリル共重合体、ポリエチレンテレフタレート、エチレン・ビニル・アルコール共重合体、非結晶性ナイロンなどの揮発性成分非吸着性合成樹脂で形成されている、ことを特徴とする揮発性成分を内蔵する被包装物の包装用チャック付き袋体。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 被包装物収納部3の開口側が剥離性シール部4により密閉区画されており、  
チャック2が剥離性シール部4に対して開口側に位置しているチャック付き袋体であって、  
チャック2はポリエチレン、ポリプロピレンあるいはそれらの共重合体などの揮発性成分吸着性合成樹脂で形成されており、  
一方、剥離性シール部4を含む被包装物収納部3の少なくとも最内層はポリアクリロニトリル共重合体、ポリエチレンテレフタレート、エチレン・ビニル・アルコール共重合体、非結晶性ナイロンなどの揮発性成分非吸着性合成樹脂で形成されている、ことを特徴とする揮発性成分を内蔵する被包装物の包装用チャック付き袋体。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 パップ剤などの揮発性成分を内蔵する被包装物の包装用チャック付き袋体。

## 【0002】

【従来技術とその問題点】 従来のチャック付き袋のチャックに使用される合成樹脂材料としては、ポリエチレン、ポリプロピレン、およびそれらの共重合体である。これらポリエチレン、ポリプロピレンおよびそれらの共重合体材料はチャックに適した物性と成形性を有しチャックとしての諸機能を満足せしめている。

【0003】 一方、チャックなし、チャック付きテープが一体化された袋本体材料も、成形の性能を満足させるため、ポリエチレン、ポリプロピレンおよびそれらの共重合体によりもしくはその最内層として形成されている。ところで、これらのポリエチレン、ポリプロピレンなどの素材は収納される被包装物によって好ましくない場合がある。すなわち、ポリエチレン、ポリプロピレンなどは、フレーバー成分や薬効成分を吸着してしまうという難点がある。このため、これらフレーバー、薬効成分の吸着により被包装物の品質低下を起こすような食品の包装や薬効の大切な医薬品包装には適していない。

【0004】 他方、ハップ剤などの医薬品などを包装する場合、その被包装物のフレーバー成分などの揮発性成分が包装材料に吸着されてしまわないように最近ではポリアクリロニトリル共重合体(PAN)、ポリエチレンテレフタレート(PET)、エチレン・ビニル・アルコール共重合体(EVOH)、非結晶性ナイロン(APA)が袋体ないしその最内層に用いられている。

【0005】 しかしながら、これらの揮発性成分非吸着性合成樹脂はチャックとしての咬合特性や成形性に劣るため、これらの揮発性成分非吸着性合成樹脂を用いた袋体はチャックなし袋体として使用されていた。

## 【0006】

【解決すべき課題】 最内層にフレーバー成分などの揮発性成分非吸着性合成樹脂を用いた袋体において、被包装

物の揮発性成分をチャックに吸着しないようにチャック付き袋体を形成すること。

## 【0007】

【技術的手段】 被包装物収納部3の開口側が剥離性シール部4により密閉区画されており、チャック2が剥離性シール部4に対して開口側に位置しているチャック付き袋体であって、チャック2はポリエチレン、ポリプロピレンあるいはそれらの共重合体などの揮発性成分吸着性合成樹脂で形成されており、

【0008】 一方、剥離性シール部4を含む被包装物収納部3の少なくとも最内層はポリアクリロニトリル共重合体、ポリエチレンテレフタレート、エチレン・ビニル・アルコール共重合体・非結晶性ナイロンなどの揮発性成分非吸着性合成樹脂で形成された、揮発性成分を内蔵する被包装物の包装用チャック付き袋体。

## 【0009】

【作用】 チャック2が揮発性成分吸着性合成樹脂で作られているが、被包装物bと剥離性シール部4で仕切られているので、被包装物bの揮発性成分は包装中はチャック2に吸着されることはない。

## 【0010】

【実施例】 以下、本発明の実施例について説明する。図1において、1は本発明チャック付き袋体、2はポリエチレン、ポリプロピレンまたはそれらの共重合体で作られるチャック付きテープで、本体フィルムfにホットメルト剤あるいは接着性樹脂で接着されるか、あるいはたとえばチャック用の樹脂素材であるポリエチレンと本体フィルムf用の樹脂素材であるポリアクリロニトリル共重合体とを貼り合わせたテープ材を、そのテープ材のポリアクリロニトリル共重合体側が本体フィルムfに面するようにして熱圧着し、このテープ材部分のポリエチレン層に、ポリエチレンによるチャックを押出一体成形するなどの手段により本体フィルムfと一体化される。3は被包装物収納部でbは収納される被包装物、4は剥離性シール部である。すなわち、本体フィルムfは一般には、揮発性成分非吸着樹脂、すなわちポリアクリロニトリル共重合体またはポリエチレンテレフタレートまたはエチレン・ビニル・アルコール共重合体、または非結晶性ナイロンなどで作られる。

【0011】 そして剥離性シール部4は揮発性成分非吸着性合成樹脂製フィルムを剥離性シール部4の範囲内において、サイドシール温度より低い温度でヒートシールすることにより得られる。剥離性シール部4のシール強度は600g/15mm~1000g/15mmに設定することが好ましい。開封するときはチャック2を開いた後、さらに剥離性シール部4を開けばよい。

【0012】 このように被包装物収納部3の内面を揮発性成分非吸着性合成樹脂で形成し、かつ、被包装物収納部3が剥離性シール部4で密封され、被包装物bはその揮発性成分がそのまま保持される。一方チャック2はポ

リエチレン、ポリプロピレンなどのオレフィン系合成樹脂で形成されるので、チャックとしての機能が損なわれることはない。

【0013】なお、袋本体部のフィルムfは前記したフレーバ非吸着性合成樹脂の単層でもよいが、たとえば外層のポリエチレンテレフタレートにアルミ層とポリアクリロニトリル共重合体層を組み合わせたもの、あるいは外層の紙にポリエチレン、アルミ、ポリアクリロニトリル共重合体を組み合わせるといように、袋体としての機能向上を計った複層構造とすることが好ましく、上記

【0014】

【発明の効果】被包装物収納中、被包装物bは揮発性成分非吸着性合成樹脂層を少なくとも最内層とし、剥離性シール部4を介して密封された被包装物収納部3内に収納されているので、揮発性成分が袋本体フィルムfに吸

着されることがない。一方チャック2の揮発性成分吸着性合成樹脂は剥離性シール部4を介して被包装物収納部3から独立して位置しているので、被包装物bの揮発性成分を吸着することがない。

【0015】したがって被包装物の品質低下医薬品の薬効の低下を招来することがない。また、開封後、被包装物の揮発性成分をチャック2の揮発性成分吸着性合成樹脂が吸着することは考えられるが、この種揮発性成分を含有する被包装物bは開封後普通数日で使用し尽されるから実際の使用上特に問題はない。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明チャック付き袋体の断面図、

【符号の説明】

1：本発明袋体、2：チャック付テープ、3：被包装物収納部、4：剥離性シール部、b：被包装物、f：袋本体部のフィルム。

【図1】

